

平成 29 年度 第 3 回 京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

平成 30 年 2 月 23 日（金）午後 2 時から 4 時 30 分まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史会長、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、内藤千鶴委員、永田紅委員、松下亜樹子委員、村川広美委員、矢納佳実委員

※欠席者 潮江宏三委員

4 会議の内容

- (1) 第 2 回協議会の議事録について
- (2) 平成 29 年度取組状況について
- (3) 平成 30 年度事業計画（案）について
- (4) 新しい評価手法について
- (5) 今後のスケジュールについて
- (6) その他

5 協議事項（・：委員、→：事務局）

- (1) 第 2 回協議会の議事録について
○事務局から第 2 回協議会の概要について資料に基づき説明。
- (2) 平成 29 年度取組状況について
○事務局から概要について資料に基づき説明。
○委員意見
 - ・たくさんの事業を展開していてその点は評価できる。5 年後を見据えて計画的に進められることが望ましい。現状維持の部分と伸ばすところの見極めが今後重要になると思う。
 - ・新聞等への掲載もたくさんあるが、府民の方にどれほど伝わっているか、伝わるかという、広報の量とともに質の問題があるのでは。
 - ・時代の流れにあわせて強化・充実させていく部分は、他と違う図書館を新しく目指していこうとすれば基本方針Ⅲの部分なのではないか。
 - ・取組が学生に伝わっているかは疑問。学校を通して広報するなど、まだまだ情報を伝えていく方法があるのではないか。
 - ・様々なイベントにおいて、年齢層やターゲットがあまり具体的にわからない。外国人向けの言語に関するイベントなど、ターゲットを明確化することが大事ではないか。
 - ・学校支援の一環として、体験学習を積極的に受け入れてはどうか。
 - ・子どもの居場所づくりや子ども食堂への本の貸出は、とても素晴らしい。そのような場所において本が果たす役割は根源的なものがあって、心理的にも居場所を提供できるのではないか。

- ・近隣の博物館・美術館等との連携展示の場合、美術館等での観覧後に、うまく図書館側にも誘導する工夫が必要ではないか。
 - ・「音の図書館」も興味深い。次はお香などを取り入れた「匂いの図書館」などもあり得るのでは。大学生のコンシェルジュのアイデアも興味深い。
 - ・市町村からの資料購入のリクエスト受付件数が270件あったとのことだが、どのような内容だったのか。
- 専門的な資料や個別の市町村では多くの利用が望めないが、府内全体で見ると利用がある資料についてリクエストを受け購入している。
- ・府内図書館長会議を開催したとあるが、その様子は。
- 年度当初に開催。連絡車の巡回回数が増など前年度に市町村図書館と協議した結果をまとめ、方針を確認いただいて、意思統一を図った。
- 会長意見
- ・今までの意見を、29年度の取組を評価する際にも、今後の計画を立てる際にも、参考にさせていただきたい。

(3) 平成30年度事業計画(案)について

- 事務局から概要について資料に基づき説明。
- 委員意見
- ・研究という表現があるのは面白い。事業を実施するかはともかく、検討していく、というのは大事なことで面白い。実際に実を結ばなくても、探求していかなければ始まらないことはたくさんある。
 - ・全体的に取組事項に数値目標を設定することが大切である。また、府立図書館の役割はモデルづくりと研究と考えるので、どこかの時点で市町村立図書館に展開してほしい。特に子ども読書活動支援の項目はその方向で考えてもらいたい。
 - ・ホームページを充実させておられるので、アクセスを数値化して傾向を把握すべきでは。どのような単語で検索されて、ホームページに来ているかも合わせてわかるとよい。
 - ・ただ、数値目標を設定することと、more, moreを期待することは別。マンパワーの問題もあるので、大体のターゲットを設定する、という意味でお願いしたい。
 - ・数値を出していただく際に、前年度等と比較できるところは出していただきたい。
- 今回、30年度の計画については、数値目標の記載まで及ばなかった。次年度当初に予定する次回協議会ではお示ししたい。なお、府の事業はモデル的に、とご意見をいただいたことは大変ありがたい。我々が試験的に実施した結果を市町村立図書館にお返ししながら、どのように連携してやっていけるかを追求したい。
- ・遠隔地の府民が図書館の活動をどれほど把握できているかは疑問。
 - ・出前講座は図書館職員対象のみならず、遠隔地の府民対象の図書館活用講座などがあるのもよいのでは。
 - ・NPOなどと連携して活動されているが、ノウハウや連携先の紹介などを市町村立図書館に伝えるとよいのではないか。また、市町村立図書館が子ども読書などの活動を深めるためにも、府立図書館において子ども読書支援活動は必要である。
 - ・他の市町村でも、府立図書館の事業計画や評価のシステムなどが手本になっていくのではないか。そのためにも、市町村の担当者との情報交換の機会も増やしてほしい。
 - ・市町村の図書館・学校の図書費が削減されていくなか、府立図書館の役割は重要。府立図書館が行っている市町村支援の内容が十分に市町村に伝われば、連携のパイプも

太くなるのではないか。

- ・大変期待を持てる計画。府立図書館と市町村立図書館の役割分担が、しっかり一般の利用者にも見える形になればよりよい。すべてのことはできないので、分担を明確にすることはますます重要と考える。
 - ・京都市図書館との相互返却サービスは自分の周囲の利用者に非常に好評。
 - 市町村立図書館への当館事業の説明ということでは、館長会議・年間4回の巡回・京都府図書館等連絡協議会での説明、と場を確保している。その上で、市町村立図書館の方にどのように活用していただくかが課題である。例えば、3月に予定されている府内南部地域の協議会は、当館が参画している「シラベル」というワークショップに興味を持たれ、協議会の研修で行いたいという要望を受けて、当館で開催し、講師も担当する。NPOとの連携方法も含め、情報提供を行っていきたいと考えている。
 - ・いろんな機会が今後もあると思うので、上手く、さらに活かしてほしい。活動や研究をどんどん進めて、その成果をブレイクダウンするような様々な説明が必要になると思われる。
 - ・「シラベル」は具体的にどういった年齢層の子どもが対象になっているのか。
 - 「シラベル」子ども向け版の際は、小学生の参加があった。大人向けの場合は、大学生から70代まで、いろいろな属性の方に参加いただいた。
 - ・12歳から18歳を対象とした企画や館内コーナーが少ないのではないかと。ビブリオバトルや年齢を限定した講演会、進路や就職に関する本や生き方に影響を与える本のコーナーなどがあったら良いのではないかと。
 - ・ターゲットを設定するというのは重要。もちろんいろんな方が参加できる企画をやりつつ、ターゲットを絞った企画を検討してほしい。
 - ・今回の計画で具体策の記載のない部分はどのように理解したらよいか。5年間の後半のいつかで実施する、ということか。
 - 評価は、64の具体策でなく20項目でお願いしたいと考えている。その20項目のくりのなかでは毎年度何かを行っていくということを考え、今回からこのようにまとめて記載している。
 - ・「アーカイブ」ということにも留意いただきたい。事業を蓄積していくため、また市町村立図書館に伝えるためにも、成果をまとめてアーカイブしていくことを考えてほしい。
 - 館内でも議論を始めたところで、心強い御意見をいただいた。残して、見える化して、市町村、利用者にも、将来的にも利用いただくように考えたい。
 - ・通常の職員研修でも北部会場は期待されている状況がある。
 - 北部での研修は引き続き実施したい。また出前研修の場合、書庫整理の日など、なるべく市町村立図書館職員全員が参加しやすい設定を行いたい。
- 会長意見
- ・平成30年度の実績の大枠はお認めいただいた、とまとめさせていただく。

(4) 新しい評価手法について

- 事務局と評価グループ長である桂委員から概要について資料に基づき説明。
- 委員意見
 - ・自分たちで評価をしていく文化を作る、要するに評価が自分たちの役に立つ、というのを、自分たち自身で感じない限り、なかなか評価できない。一方で、評価疲れがないように、というのは各方面から声があるところ。評価のための評価であってはいけ

ないという言葉は、まさに至言である。

- ・評価の方法を業務分析から立ち上げる作業が、評価グループで非常に重要になる。
 - ・図書館の潜在的な価値をアピールすることを考えてほしい。
 - ・評価グループは多様なメンバーで構成されており、有益な提案が出てくると思う。評価を通して府立図書館の変革につながることを期待する。
 - ・学校現場でも、子ども・保護者のアンケートなども取りながら、校内で評価会議を持ち、また外部委員にも検討いただいて、新しい方針を打ち立てる。今回の報告の方向で進めてほしい。
 - ・評価の結果が出たときに、どこかが悪くてもどこかが突出して優れていれば、その点を強みと考えたい。「〇〇と言えば府立図書館」「府立図書館と言えば〇〇」というふうになれば一番強い。悪いところを見て「ダメ」ではなく、良いところを評価するという捉え方が大事である。
- 評価グループでは8月末までに結果を出して、協議会に報告できるように進めたい。基本方針Ⅲが注目される構造になるが、基本方針ⅡとⅠをしっかり評価していただく、ダメなところはダメと言っていただく、という形をお願いしたいと考えている。
- ・評価はコンテンツの結果論に陥りがちだが、プロセスの評価も織り込んでいただきたい。コンテンツの結果としては評価が難しくても、プロセスを見ていくというのが大事である。
 - ・前を向いている姿勢というのものは是非入れていただきたい。
- 来館者数や貸出数だけで評価されるのではなく、府立図書館としては、知ってもらう・活用してもらうために様々な活動を行っており、その取組のプロセスを含めた評価指標をお願いしたい。

○会長意見

- ・今までの意見を踏まえ、評価基準作成にあたっては、量と質と両面を取り入れたものが重要になる、ということの評価グループにお伝えいただくということとしたい。

(5) 今後のスケジュールについて

- 事務局から概要を説明した。
- ・次回は6月下旬の開催を予定。

(6) その他

- 特になし。